

2018年度第2回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ フローラルウォーク賞

フローラルウォーク（花の遊歩道）は、名鉄名古屋本線中京競馬場前駅から中京競馬場までを結ぶ屋根付きの通路の愛称。上屋は四季折々の花で飾られている。平成17年に名古屋競馬株式会社の施工により完成したもので、雨の日も濡れることなく駅と競馬場を往復することができる。

○ トリトンステークス

トリトン（Triton）は、ギリシャ神話の海の神ポセイドンの息子の名。名古屋港に架かる名港西大橋・名港中央大橋・名港東大橋の3つの橋は「名港トリトン」と呼ばれ、ドライブコースとして人気がある。

○ 瀬戸特別

瀬戸（せと）は、愛知県北部の市。良質の陶土を産し、日本有数の陶磁器の産地となっている。鎌倉時代に加藤景正が中国から陶法をこの地に伝えたのが日本の陶器の起源と言われ、「せともの」という言葉は「瀬戸（でつくられた）もの」に由来する。

<第2日>

○ 昇竜ステークス

昇竜（しょうりゅう）は、空に昇っていく竜のこと。勢いのよいことの例えに用いられる。

○ 金鯨賞（GⅡ）

本競走は、昭和40年に創設された重賞競走。グレード制の導入後はGⅢで実施されていたが、平成8年にGⅡに格上げされた。それに伴い、負担重量がハンデキャップから別定重量となり、距離も当初の1800mから2000mに変更された。創設時は春季に実施されていたが、24年に秋季へと移設され、昨年から再び春季に実施されることとなった。なお、第1着馬には同年の大阪杯への優先出走権が与えられる。

競走名は、名古屋城のシンボルである「金の鯨（しゃちほこ）」に由来する。

○ 賢島特別

賢島（かしこじま）は、三重県志摩市の英虞湾（あごわん）内にある島。伊勢志摩国立公園の中心地で、多くの観光客で賑わっている。また、2016年に開催された伊勢志摩サミットのメイン会場としても知られている。

<第3日>

○ 伊勢特別

伊勢（いせ）は、旧国名。東海道 14 か国のひとつで、現在の三重県の大半を占めていた。天照大神と豊受の神を祀る伊勢神宮には、昔から多くの「お伊勢参り」の参詣者が訪れる。

○ 中日スポーツ賞ファルコンステークス（GⅢ）

本競走は、昭和 62 年に『中日スポーツ賞 4 歳ステークス』の名称で創設された重賞競走。創設当初は 1800m で実施されていたが、平成 8 年より距離が 1200m となり、13 年に現在の名称となった。その後、重賞競走体系の見直しに伴い、18 年より実施時期が 6 月から 3 月に移された。また、24 年には距離が 1400m に変更された。

ファルコン（falcon）は、ハヤブサを意味する英語。

中日スポーツは、中日新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 恵那特別

恵那（えな）は、岐阜県南東部の市。中心の大井はかつて中山道の宿駅であった。精密機械や製紙、電機工業が盛ん。周辺には木曾川をダムでせき止めて作られた人造湖、恵那峡があり、四季折々の自然が楽しめる。

なお、同市にある J-PLACE 恵那では、平成 26 年 10 月から JRA の勝馬投票券が購入可能となっている。

<第4日>

○ 沈丁花賞

沈丁花（じんちょうげ）は、中国原産のジンチョウゲ科の常緑低木。早春、香りの強い花を多数開く。雌雄異株であるが、日本に生息するものはほとんどが雄株であり実を結ばない。名は、花の香りを沈香（じんこう）、形を丁字（ちょうじ）に例えたことに由来すると言われている。花言葉は「栄光」「永遠」。

○ 小牧特別

小牧（こまき）は、愛知県北西部の市。市内にある小牧山は、豊臣秀吉と徳川家康の軍勢が衝突した「小牧・長久手の戦い」が行われた場所として有名。中心市街は、永禄 6 年（1563）に織田信長が小牧山に築城した際の城下町。現在は名神・東名高速道路、中央自動車道が分岐する交通の要所となっている。

○ 豊橋特別

豊橋（とよはし）は、愛知県南東部の市。豊川下流南岸に位置する。松平氏の城下町、東海道五十三次の吉田宿、二川宿として発展した。また、遠州灘沿いの表浜海岸はアカウミガメの産卵場所として知られる。西部には、自動車の輸入台数、金額ともに全国第 1 位を誇る三河港を中心に臨海工業地帯が形成されている。

<第 5 日>

○ 大寒桜賞

大寒桜（おおかんざくら）は、バラ科サクラ属の落葉高木。花は半開状で下を向いて咲く。競走名は、平成 24 年の中京競馬場グランドオープンにあたり、中京馬主協会より 3・4 コーナーのコース外周沿いに大寒桜が寄贈されたことを記念して名付けられた。

○ 名古屋城ステークス

名古屋城（なごやじょう）は、名古屋市にある城。慶長 14 年（1609）に徳川家康の命で諸大名が築城を開始し、完成後は尾張徳川家の居城となっていた。天守は、昭和 34 年に再建されたコンクリート製だが、ほぼ正確に外観復興されており、金鯨（きんこ）とともに名古屋の顔となっている。また、正門と大小天守以外の建造物はすべて戦災を免れた現存物で、その大部分が国の重要文化財になっている。

○ 岡崎特別

岡崎（おかざき）は、愛知県中南部の市。矢作川とその支流である乙川の流域に位置し、東海道の宿駅として発展した。徳川氏ゆかりの地で、家康の出生地でもあり、市内には岡崎城跡など多くの史跡が残っている。600 年ほど前から醸造されている八丁味噌が名産。

<第 6 日>

○ 刈谷特別

刈谷（かりや）は、愛知県中部の市。地名は、元慶元年（877）に出雲より一族を連れ移住した狩谷出雲守の名に由来すると言われている。徳川家康の生母「於大（おだい）の方」ゆかりの地としても知られる。現在は、自動車関連産業の中心地として発展している。

○ 熊野特別

熊野（くまの）は、三重県南部の熊野灘に面する市。吉野熊野国立公園内に位置し、地域は豊かな自然と温暖な気候に恵まれている。平成 16 年には熊野三山への参詣道である熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された。

○ 高松宮記念（G I）

本競走は、昭和 42 年に創設された『中京大賞典』を前身とする重賞競走。46 年に高松宮殿下から優勝杯を賜ったのを機に『第 1 回高松宮杯』に改称された。以来、距離 2000m の別定戦で実施されていたが、平成 8 年に距離が 1200m に変更されるとともに、G II から G I に格上げされ、中京競馬場初の G I 競走となった。また、10 年には競走名が『高松宮記念』に変更され、12 年には実施時期が 5 月から 3 月下旬へと移された。春の古馬スプリント路線の頂点を決める競走であるとともに、春の G I シリーズの始まりを告げる一戦となっている。

○ 鈴鹿特別

鈴鹿（すずか）は、三重県北部の市。古くは伊勢国府・国分寺が置かれた。西部には、日本初の国際レーシングコースである鈴鹿サーキットがあり、自動車レース最高峰の F1 日本グランプリやオートレースの鈴鹿 8 時間耐久ロードレースなどが開催される。